

あきう里だより



キツネは何処へ・・・

じじとばばのもくろみ

まだまだ寒い秋保ですが、来るべき春に向けて、じじとばばの楽しい目論見が始まりました。それは「蜂蜜」を採ってみようという事。ミツバチを飼ってみようという事です。それも、日本ミツバチを・・・。昨年の秋のことです。「映像詩 里山」というテレビ番組を観ていたら、日本ミツバチの分蜂群を捕まえて、蜂蜜を採っているおじいさんがいたのです。「これってここでも出来るんじゃないかな」と思ったばばは、色々調べてみて、何とかかなりそうだったので、早速じじ様をまきこみました。(分蜂とは蜜蜂が種を保存する為に、群れの蜜蜂の数だけでなく、群れの数を増やす為に、母の女王が働き蜂と巣を離れることを言います) まず、分蜂群を入れる箱、巣箱を作らなければなりません。おじいさんが作っていた丸太をくりぬいたものを真似て、手近にあった松と杉の丸太(直



半分にしました



チェーンソーで切り込みを入れます

黄色い花はオンシジウムです

径 上が 40 cm 下が 50 cm) をくり抜きました。サラッと書いていますがかなりの力仕事です。(じじ様の仕事です) 新しいものより古いもののほうが入りやすいとあったので、早い時期に作れたのは好条件でした。巣箱が出来たにしても、どうしたらミツバチが来てくれるのだろうか・・・またまた調べました。(各種、検索と調達はばばの役目です) 東洋ランの一種の金稜辺(キンリョウヘン)の花を側に置けば、間違いなくやって来るとありました。キンリョウヘンの花は日本ミツバチの女王が出す集合フェロモンに似た物質を出すそうです。そのキンリョウヘンを偶然手に入れたのはいいのですが、まだ小さい苗なので、花が咲くまでには、少なくとも3年はかかりそうです。さてどうしたものか・・・またまた調べてみたら、蜜蝋を内側に塗ればいいとあったので、少々高かったけれど、日本ミツバチの蜜蝋も手に入れました。そんなこんなで、準備万端怠りなく春を待つだけとなりました。分蜂群を捕獲するのは、かなり難しいらしいのですが、じじ様の作った「お家」に首尾よく入ってくれることを期待しています。分蜂の時期は5月～6月。今年が駄目ならまた来年チャレンジすればいい・・・気の長い話ですが、楽しみがまたひとつ出来ました。経過は里だよりで順次お知らせします。



完成です



年輪に沿って割りはじめます



とれました



合わせました